科目名			担当教員	
ソーシャルワーク演習Ⅱ			三浦 剛／元村 智明／高野 亜紀子／清水 冬樹／眞嶋 智彦／二渡 努／芳賀 恭司／石附 敬ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CN5253	3	1	SR（演習）	4年以上
履修登録条件		受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、ソーシャルワークの知識・技術の習得を図る。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。

1）ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
2）社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
3）支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
4）地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
5）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
6）実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

■到達目標

ソーシャルワーク実習で習得した知識と技術をより実践的なものへと成長させ、演習の場面で実践できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

演習・スクーリングへの取り組み、レポートなどにより総合的に評価する。

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワーク演習Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座［専門科目］７ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、２０２１年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

1）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１２ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、２０２１年

2）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１１ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、２０２１年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

1）この科目は、スクーリングの受講が必須となります。

2）１クラス２０人以内の少人数で開講します。

3）受講料は１０,０００円となります。

4）受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。

5）スクーリング開講日・申込締切日は、通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。

6）申込方法は、通信教育部 HP 掲載の『With』またはポータルサイトで案内します。

7）クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。

8）申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。

9）公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日（実習免除者はスクーリング申込締切日）までに

（1）実習受講者

①実習申込受理判定に合格していること。

②「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-１」スクーリングを受講していること。

③その他、『ソーシャルワーク実習』の手引き第１分冊も参照してください。

（2）実習免除者

①「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の単位修得

②「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の１・２単位めのレポート提出

③指定科目 40 単位以上の修得見込み（分割型希望者は 20 単位以上）

④卒業要件単位 90 単位以上の修得見込み（分割型希望者は 80 単位以上）

■スクーリング申込手続き

※開講日・会場は『試験・スクーリング情報ブック』を参照してください。

（1）実習受講者

※申込みに関するご案内は対象者へ個別に案内します。

「演習Ⅱ-1」

➡「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-2」とセットでの申込みおよび受講となります。

「演習Ⅱ-2」

➡「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-4」とセットでの申込みおよび受講となります。

（2）実習免除者

※申込方法は、通信教育部 HP 掲載の『With』、ポータルサイトで案内します。

※早めに受講条件を達成した方が希望の会場で受講できる可能性が高くなります。

分割型

➡「演習Ⅱ-1」を 4～5 月に、「演習Ⅱ-2」を 11～12 月に各地（札幌、東京、新潟）で、実習受講者と一緒に１日ずつ計２日間受講。

※開講がない地域では受講できません。また、実習受講者を優先しますので、定員に空きがない場合は受講できません。

※9 月卒業のためには、８月開講の連続型（仙台）で受講ください。

連続型

➡「演習Ⅱ-1」「演習Ⅱ-2」を８月または 11～12 月に仙台で、実習免除者のみ参集の２日間連続受講。

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として必要とされる価値・倫理、そして専門的知識や技術、方法について再確認するために、ソーシャルワーク実習（実習免除者は実務経験をもとに）での経験を前提として、実習先のソーシャルワークにおいて用いられた価値・倫理、そして専門的知識や技術を再確認するとともに、事例検討や質疑を通してその視点と方法、技術について実践能力を習得してください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合	実習体験（実務経験）から得た内容を共有し、実習先（実務先）で使われていたソーシャルワークの価値・倫理、そして知識・技術をまとめる。ピアスーパービジョン、教員とのスーパービジョンを行う。
2	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得①（ケース発見から評価・終結までのプロセスを通して）	支援を必要とする人が抱える複合的課題（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等の実技指導を行う。
3	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得②（地域のニーズ把握）	支援を必要とする人が抱える複合的課題について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング等の実技指導を行う。
4	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得③（地域アセスメント、地域組織化、社会資源開発）	支援を必要とする人が抱える複合的課題について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、チームアプローチ、ネットワーキング、サービス評価等の実技指導を行う。

5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程の理解	実習記録（実習免除者は実務経験をもとに）等を用いて、ソーシャルワークの対象についてまとめる。その内容について共有し、実習種別による違いや共通点を話し合う。
6	ソーシャルワークの実践活動の意義や方法の理解	実習（実習免除者は実務経験）で体験した社会福祉士のソーシャルワーク活動や倫理的ジレンマ、援助場面について、逐語記録やプロセスシート、ロールプレイなどを用いて場面を再構成し、援助方法等を演習生同士でディスカッションし検討する。
7	スーパービジョンの機能について理解する	実習記録等を用いて、実習中受けたスーパービジョンの内容についてまとめる。またその内容を共有し、スーパービジョンの意義について理解する。
8	社会福祉施設・機関・団体の役割について、またソーシャルワーク機能が求められる領域について理解を深める	実習記録等を用いて、実習先の役割・機能についてまとめ、その内容を演習生と共有し、役割や機能の違いについて話し合う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、具体的に理解できたかを問います。スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法」など、ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的（第１章第１節・第２節）	ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）、多職種連携コンピテンシーについて理解する。	社会福祉士に求められる役割と地域を基盤としたソーシャルワークの機能、ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）について学んでください。

2	事例の基本情報（第１章第３節・第２章第１節）	事例を通した学びやアクティブ・ラーニングと事例展開の全体像を把握することについて理解する。	事例に学びながらコンピテンシーの習得と社会福祉士の所属先のこと、クライエント理解（場所・状況・家族・地域）、社会福祉士のアクション（活動）について学んでください。
3	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）（第２章第２節）	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）段階の社会福祉士のアクション（活動）について理解する。	支援を求める人を把握し、援助関係の形成への着手、その際の波長合わせ・インテーク面接・信頼関係の形成・生活歴の把握について学んでください。
4	アセスメント（第２章第３節）	アセスメントのための面談と各記録について学ぶ。	アセスメントにおけるフェイスシート・アセスメント記録・自己決定の原則・意思決定支援について学んでください。
5	プランニング（第２章第４節）	クライエントの選択や決定のプロセスに参加する権利とニードについて理解する。	プランニングにおける思いを確認する・ストレングス・プランニング案・意向・支援目標・支援計画（ニーズ・優先度・目標・支援内容）・支援計画の共有・守秘義務について学んでください。
6	支援の実施とモニタリング（第２章第５節）	日々の変化するクライエントの状況への対応について理解する。	支援の実施とモニタリングにおいて生活状況の確認と今後について考えることクライエントと取り巻く環境（人・状況）への理解と気持ちの確認について学んでください。
7	支援の終結と結果評価アフターケア（第２章第６節）	支援終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	支援の終結においてエンゲージメント（インテーク）からソーシャルワークの展開過程と結果について支援を振り返り、短期目標や長期目標の設定のあり方について学んでください。
8	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー（第２章第７節）	ソーシャルワークの展開過程と課題認識、アクション（活動）に対するコンピテンシー（実践能力）について理解する。	アセスメント・支援実施とモニタリング・支援終結・マクロレベルのソーシャルワーク実践・多職種連携におけるコンピテンシーについて学んでください。
9	地域社会の社会的孤立と支援（第３章第１節）	社会的孤立におけるソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	ソーシャルワーク専門職の価値や原則、ひきこもり支援、エコマップ作成、コーディネーションの目的と方法、社会資源の活用・調整・開発アウトリーチ、エンパワーメントアプローチ、ナラティブアプローチ、包括的な支援体制の整備、多職種連携コンピテンシーについて学んでください。
10	服役者（高齢者・障がい者）への多機関・多職種による支援（第３章第２節）	服役者の福祉ニーズへのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	振り返りと自己規制、スーパービジョンの活用、多職種・多機関との連携・協同による支援について学んでください。
11	メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能（第３章第３節）	メンタルヘルス課題へのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	多様な生活のしづらさに寄り添う支援、症状だけではなくストレングスへの意識、社会資源の活用・開発、多様な専門職・非専門職との連携・協働について学んでください。

12	子どもや親のSOSへの支援（第３章第４節）	SOS へのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	子どもと家族との関係形成とニーズキャッチ、子どものストレングス、家族の不安や困難へのアセスメント､SOS 発見やアウトリーチ、代弁について学んでください。
13	クライエントの気になる問題への支援（第３章第５節）	クライエントの気になる問題へのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	主体性の尊重や人間の社会性、社会構造、人と環境の交互作用、家族問題の発生、家族の努力や社会資源について学んでください。
14	災害支援とソーシャルワーカーの役割（第３章第６節）	災害支援とソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	災害時のストレングス視点、要配慮者の主体形成、社会的課題の可視化・構造化・施策化、調査方法、災害時の支援機関・団体の連携・協働、医療・保健機関・団体の価値観・思考・行動特性について学んでください。
15	地域ニーズに対応したサービス・事業開発（第３章第７節）	地域ニーズへのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	地域アセスメントや社会調査、ソーシャルインクルージョン、地域的取り組み、就労困難者のソーシャルファームの意義について学んでください。

■レポート課題

１単位め	**（スクーリング事前課題）** 支援を必要とする人が抱える複合的課題（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）について１つ選び、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等を用いて支援していく過程を説明してください。
２単位め	**（スクーリング事前課題）** ケース発見から評価・終結までのソーシャルワークのプロセスをミクロ・メゾ・マクロレベルでの展開を踏まえてまとめてください。
３単位め	**（スクーリング事後課題）** ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

支援を必要とする人々が抱える課題は、必ずしも１つの生活課題だけではありません。

それまでの生活歴や家族関係、地域社会とのつながりなど複合的です。そのため複合的課題を１つ取り上げて、そこで展開されるソーシャルワークとして、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等を用いてソーシャルワークの展開過程をしっかり意識して、自らのことばで明確に述べましょう。使用した事例などの出所を明示してください。使用に際して、守秘義務の観点から実際の例ではなく、個人情報が匿名化された事例として加工しながら創造的にレポートしてください。

【2 単位めアドバイス】

指定教科書では、第２章がソーシャルワークの展開過程となっていますので、各展開過程における基本用語をおさえながら、ソーシャルワークの展開についてミクロレベルからメゾレベル、マクロレベルの展開について整理してみてください。

【3 単位めアドバイス】

スーパービジョンについては、教科書『最新社会福祉士養成講座［専門科目］7ソーシャルワーク演習（社会専門)』（中央法規出版 2021 年）の第 3 章第 2 節の事例で再確認したり、社会福祉の辞典・事典で確認することでソーシャルワークのスーパービジョンの意義が再確認できます。

■レポートの提出方法 ――

1）1 単位につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。

2）1 単位のレポート文字数は 2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。

※パソコン印字の場合は、左右４０字×３０行×２～４枚まで可。

3）教員名の欄には記入しないでください。

4）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』参照)。

5）1・2 単位めレポート（スクーリング事前課題）は、スクーリング申込・受講条件達成を確認後、教員が添削します。